

基礎研究医コース

I. 到達目標

臨床研修と基礎研究の両立を目的とし、基礎系の大学院入学と並行して臨床研修を行いながら、高度な知識や技能、研究能力、臨床能力を修得する。2年間の臨床研修期間において、医師としての人格の涵養に努め、基本的診療能力を身に付け、基礎医学研究を通じて、研究者としての基本を身に付けるため基礎医学教室において研究活動を行う。また、基礎研究医としての基礎学力・専門知識を養い研究医としての基盤構築を図る。

II. プログラム責任者

吉川 哲史

III. 運営指導体制（研究指導教員一覧は別紙参照）

- | | | | |
|----------------|----|----|-----|
| ・分子病態解析学 | 教授 | 高橋 | 和男 |
| ・分子腫瘍学 | 教授 | 鈴木 | 元 |
| ・生理学 | 教授 | 長崎 | 弘 |
| ・生化学 | 教授 | 下野 | 洋平 |
| ・公衆衛生学 | 教授 | 太田 | 充彦 |
| ・微生物学 | 教授 | 土井 | 洋平 |
| ・神経・腫瘍のシグナル解析学 | 教授 | 貝淵 | 弘三 |
| ・分子遺伝学 | 教授 | 倉橋 | 浩樹 |
| ・難病治療学 | 教授 | 土田 | 邦博 |
| ・腫瘍遺伝子制御学 | 教授 | 佐谷 | 秀行 |
| ・先進がん免疫療法学 | 教授 | 三原 | 圭一郎 |

IV. 基礎医学系教室概要

別紙参照

V. 研修方略

基礎医学研修の研修開始前に、臨床研修の到達目標の達成度評価を行う。

1. オリエンテーション

プログラム開始時に、所属する基礎医学系の教室を決定し、オリエンテーションを行う。

2. 基礎医学研究

詳細な内容は、選択した基礎教室と相談の上決定し、研究テーマを決め研修を行う。

3. 論文指導

論文作成において、文献検索をはじめとした論文作成に必要な知識を修得する。

4. 学会発表

学内外の研究会・学会に参加し、発表を行う。

VI. 評価法

基礎医学期間中、論文の作成について指導を受け、プログラム修了後、4年以内を目途に基礎医学の論文を研修管理委員会に提出する。また、臨床研修修了後に、到達目標の達成度と臨床研修修了後の進路を管轄する地方厚生局に報告する。

VII. 研修修了後のキャリアパス

臨床研修修了後は、以下のような自己の希望に沿った多様なキャリアを形成することができる。

- 大学院生として医学博士の取得を目指し、基礎医学講座で研究活動を行う。
- 社会人大学院生として医学博士の取得を目指し基礎医学講座で研究活動を行うことと並行して、本学あるいは他病院の診療科に所属しながら臨床医として働く。
- 社会人大学院生として医学博士の取得を目指し基礎医学講座で研究活動を行うことと並行して、本学あるいは他病院の専門研修プログラムに従い専攻医として臨床活動を行い専門医取得を目指す。
- 大学院生として医学博士を取得した後に、専門研修プログラムに従い専攻医として臨床活動を行い専門医取得を目指すことも可能である。
- 基礎教室にスタッフとして勤務し、研究を継続しその後の基礎医学者としてのキャリア形成につなげる。
- 医学博士取得後、ポスドクとして国内・海外留学を目指す。